



医療安全管理室

発刊 2022年11月 Vol.46

医療安全推進情報 広報「安進くん」

<医療安全管理研修会>

安全文化の醸成!

6月15日-30日の期間、セーフティプラスにて動画による医療安全管理研修を実施しました。視聴率は96.0%でした。

内容1:「令和3年度 インシデント報告集計等」/医療安全管理室長 菅本祐司副院長

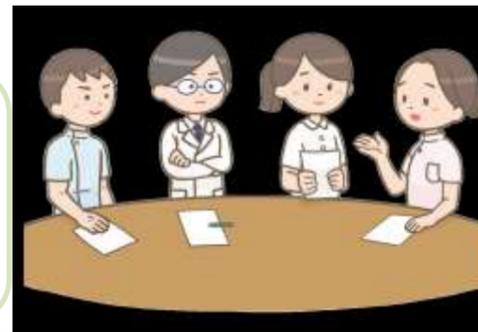
内容2:「医療メディエーションってなに? RRSってなに?」/専従医療安全管理者 服部美千代師長

RRSはRapid Response Team (RRT) が主体になって行われることが多く、そのチーム編成は各国および各医療機関で異なります。集中治療医などの医師が中心になるチームも多いですが、実際には病棟で患者さんに接する機会が多い、看護師やコメディカルの活躍が重要です!

2022年の診療報酬改定では、入院時、重症患者に対してメディエーターを導入し意志決定支援をすることにより「重症患者初期支援充実加算」が、急性期充実体制加算の施設基準に、入院患者の急変兆候を捉えて対応する体制「RRS」の導入が新設されました。どちらも直ぐに当院で適用できるものではありませんが、これからの医療に必要なことは間違いありません。

POINT! 急変前の兆候をとらえることで救命率がアップ

RRSにおける早期重症患者さんの発見
心肺停止件数の低下や、ICU入室前的心肺停止を減少させる
その後の救命率アップに繋がる いかにも心肺停止を防ぐかが重要
急変の兆候を的確にとらえ、いち早く対応することが重要!!!



<医療安全活動>

【ISBARC 研修会】

7月15日、ISBARCについて研修会「良好なコミュニケーションが患者の安全を守る～ISBARC(SBAR)を使って報告してみよう～」を開催しました。秦まき皮膚科部長による講義のあと、ISBARC ツールを使用して演習をしました。



【ImSAFER 研修会】

8月13日、ImSAFER研修会をZoomにて開催しました。コロナ禍で集合研修が実施できないため、初の試みではありましたが、スムーズに進行でき、実りのある研修となりました。参加者は22名で、春日道也講師の講義が大変好評で、アンケート結果からは、「期待通りだった」「業務に活かしたい」などの、前向きな意見が聞かれました。



<教えて! あなたの職場の医療安全> =放射線科=

日頃、MRI検査に対してご協力ありがとうございます。今回は、MRI検査に関して、どのように安全管理を行っているかを紹介いたします。

事前確認: 検査予約時、注意事項を記載された紙を配布し、検査当日までに患者さんに確認をもらう
: 担当者は、検査当日までに電子カルテにて依頼内容・同意書の確認

検査当日: 放射線科受付にて注意事項が記載されたリーフレットを渡し、検査待ち時間にもう一度注意事項を再度確認してもらう
: 検査前入室時に、依頼票を使用し本人確認・撮影部位・注意事項・金属の確認を口答で行う
: 担当技師は、検査着に着替え中に装置端末にて氏名等の入力確認を行う
: 検査室入室前に再度、金属等の外し忘れがないか確認
: 患者セッティング時、患者に撮影部位を確認



検査時: 観察窓・監視モニタにて患者を観察
: 造影剤使用
検査担当医師と体重・同意書内容・腎機能・造影剤の種類を確認
造影剤注入後から検査終了まで、SPO2モニタを使用し患者さんの体



検査終了: 単純のみ → 患者さんに体調を確認し終了
造影剤使用 → 患者さんに痒みや息苦しさなどの副作用がないか確認

検査終了後・帰宅後に体調不良が起きた場合は、「MRI造影剤等薬剤を使用するMRI検査の説明書」に記載されている連絡先に連絡し、「MRI造影検査を行った」と伝えてもらう
平日日中: 各診療科 / 夜間休日: 救急外来



上記のように、注意事項等の確認・観察を行っています。また、皆様のご協力のおかげで、金属持ち込みなどのMRI検査室におけるインシデントの事例が減少していますので、今後ともご協力をお願いします。より患者の安全を担保する為に、MRI検査に関して不明な点がありましたら、MRI担当者へご連絡下さい。